

2009年3月期（2008年度） 中間決算
事業報告会資料
2008年12月3日

戸田工業株式会社
戸田工業グループ

目次

□ 2009年3月期中間決算 事業の業績(連結)

2009年3月期中間決算 連結業績	4
業績の特徴	5
セグメント別売上高	6
2009年3月期中間決算 貸借対照表科目	7
貸借対照表科目の特徴	8
主な連結子会社の状況	9
設備投資・研究開発・減価償却	10

□ 2009年3月期(2008年度)事業計画

中期経営計画における重要課題	12
2008年度下期 営業成績の見通し	13
目標達成のための取組み	14
新たに活動を開始する会社	15
機能性顔料事業	16
電子素材事業(1)	17
電子素材事業(2)	18
エンジニアリング事業	19

2009年3月期中間決算 事業の業績（連結）

2009年3月期中間決算 連結業績

(単位：百万円)

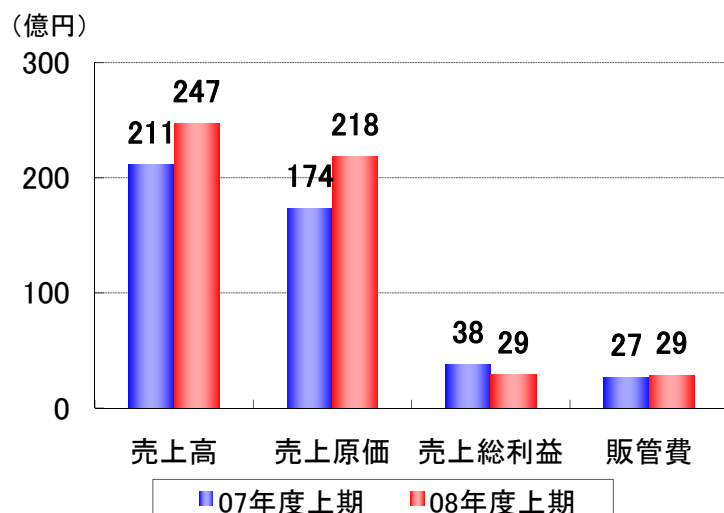
損益	08年3月期 上期	09年3月期 上期	前年同期比
売上高	21,132	24,717	117%
売上原価	17,353	21,828	126%
売上総利益	3,779	2,889	76%
販管費	2,691	2,866	107%
営業利益	1,087	23	2%
経常利益	1,130	△ 337	△ 130%
中間純利益	494	△ 1,005	△ 303%
1株当たり 純利益 (円)	10.71	△ 22.30	△ 308%

業績の特徴

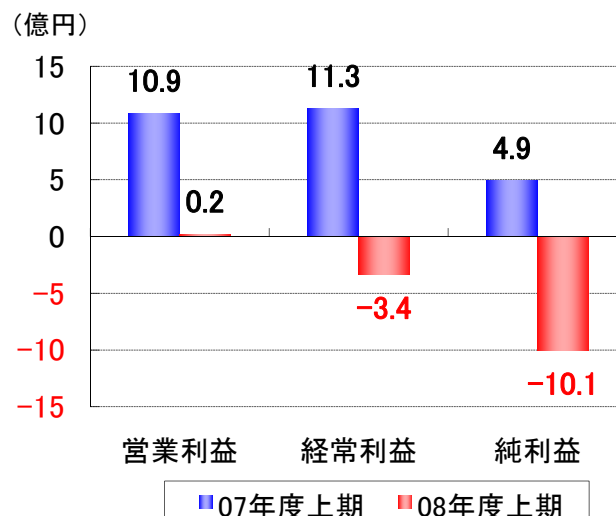
特徴

1. 売上高は、前期比+17%増加と5期連続での増収となりました。主要因は、リチウムイオン電池正極材料が拡大したことによります。その他色材事業も若干寄与しました。
2. 売上原価は、前期比+26%増加しました。これは主として、激しい原燃料、建設資材価格の高騰、H.C. スタルク社から引き継いだ電池材事業の原価増が要因となっています。管理販売費の増加についても、カナダにおける電池事業の取得が主要因です。
3. 一方、原燃料価格の上昇に対しては、売価是正活動の強化とともに、製造コストの原価低減活動を精力的に推進しました。しかしながら、経済環境の激変に抗しきれず営業利益は前期比△98%減と大幅減益となりました。
4. また、急激な為替変動による為替差損・一部の持分法適用会社の損益悪化・訴訟和解金の発生・固定資産の処分等により、経常損失・中間純損失を計上しました。

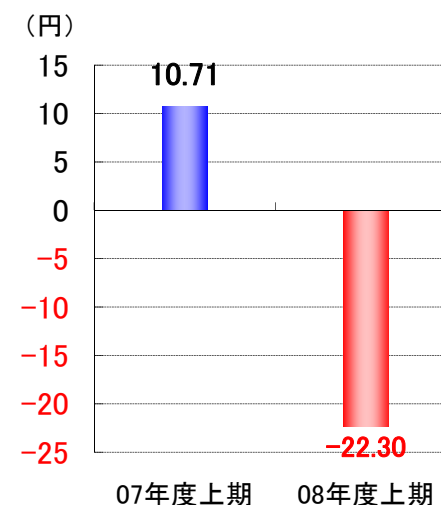
売上高、販管費等



利益



一株当り純利益



セグメント別売上高

(単位：百万円)

セグメント	08年3月期 上期	09年3月期 上期	前年同期比	包含事業
機能性顔料事業	6,884	6,902	100%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、 ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材事業	8,944	13,715	153%	電池材料、電磁環境部品/材料、 磁石/磁石材料、電子印刷部品、 半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング 事業	5,304	4,100	77%	環境エンジニアリング、 土壌浄化用触媒 など
合計	21,132	24,717	117%	

1. 機能性顔料事業は、景気の後退にも拘わらず、価格是正が進展し、前期比で僅かながらも増収となりました。
2. 電子素材事業は、電池材料事業が成長し、前期比53%増と大幅な増収となりました。
3. エンジニアリング事業は、民間設備投資等の急速な縮小により、前期比23%減と大幅な減少になりました。

2009年3月期中間決算 貸借対照表科目

(単位：百万円)

貸借対照表科目	08年3月期 上期	09年3月期 上期	増減
流動資産	28,300	29,572	1,272
固定資産	28,192	30,437	2,245
流動負債	17,773	21,149	3,376
固定負債	9,414	12,750	3,336
少数株主持分	396	298	△ 98
株主資本	28,188	25,961	△ 2,227
総資産	56,496	60,010	3,514
現金/同等物	5,421	7,187	1,766
キャッシュフロー	△ 767	893	1,660
ROE (%)	3.4	△ 3.5	△ 6.9

※ROEは年換算で算出。

貸借対照表科目の特徴

1. 総資産の増加 35億14百万円の主たる要因は、新規事業への設備投資によるものです。
2. 流動資産の増加 12億72百万円の主な要因は、高騰した電池事業用コバルト等の原材料たな卸資産の増加です。
3. 固定資産の増加 22億45百万円の主な要因は、新規事業への設備投資によるものです。
4. 流動負債の増加 33億76百万円の主な要因は、高騰した原燃料による仕入債務の増加、設備投資の増加によるものです。
5. 固定負債の増加 33億36百万円は主に借入金です。
6. キャッシュフローについては、資金調達 58億円（財務キャッシュフロー計 40億43百万円）を行うことにより、営業活動のキャッシュフロー（39億07百万円）とあわせて、63億76百万円の投資活動を行いました。
7. ROEは、中間純損失となったことから $\Delta 3.5\%$ となりました。

主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益		決算期
	08年3月期 上期	09年3月期 上期	08年3月期 上期	09年3月期 上期	
富士化水工業株式会社	5,694	6,315	△ 95	△ 53	12月末
戸田マテリアル株式会社	1,177	1,804	△ 14	104	3月末
戸田ピグメント株式会社	880	891	△ 33	4	3月末
戸田工業ヨーロッパGmbH	1,021	1,021	77	△ 349	3月末
戸田アメリカInc.	1,087	601	28	15	3月末
戸田塑磁材料（浙江）有限公司	295	416	42	19	12月末
戸田アドバンストマテリアルズInc.	-	921	-	△ 169	12月末

1. 富士化水工業(株)は、民間設備投資の縮小による減収要因があったものの、戸田工業による設備投資工事の増加もあり、売上高・経常利益とも改善しています。
2. 戸田マテリアル(株)のリチウムイオン電池材料は、規模の拡大に伴い増収増益となり、黒字転換しました。
3. 戸田ピグメント(株)は、原燃料価格上昇の影響も有りましたが、不採算銘柄の絞込み等で、経常利益は黒字転換しました。
4. 戸田工業ヨーロッパGmbHは、会計基準の変更による棚卸資産の評価減・為替差損等により、経常利益は大幅な赤字となりました。
5. 戸田アメリカInc.は、安定した経営を続けています。売上高の減少は、日本から北米への販売ルートを見直したことによるものです。
6. 戸田塑磁材料（浙江）有限公司は、中国国内で増収となったものの、原燃料価格の高騰の影響で若干の減益となりました。
7. 戸田アドバンストマテリアルズInc.は、シナジー効果を未だ発揮するに至らず、経常損失となりました。

設備投資・研究開発・減価償却

(単位：百万円)

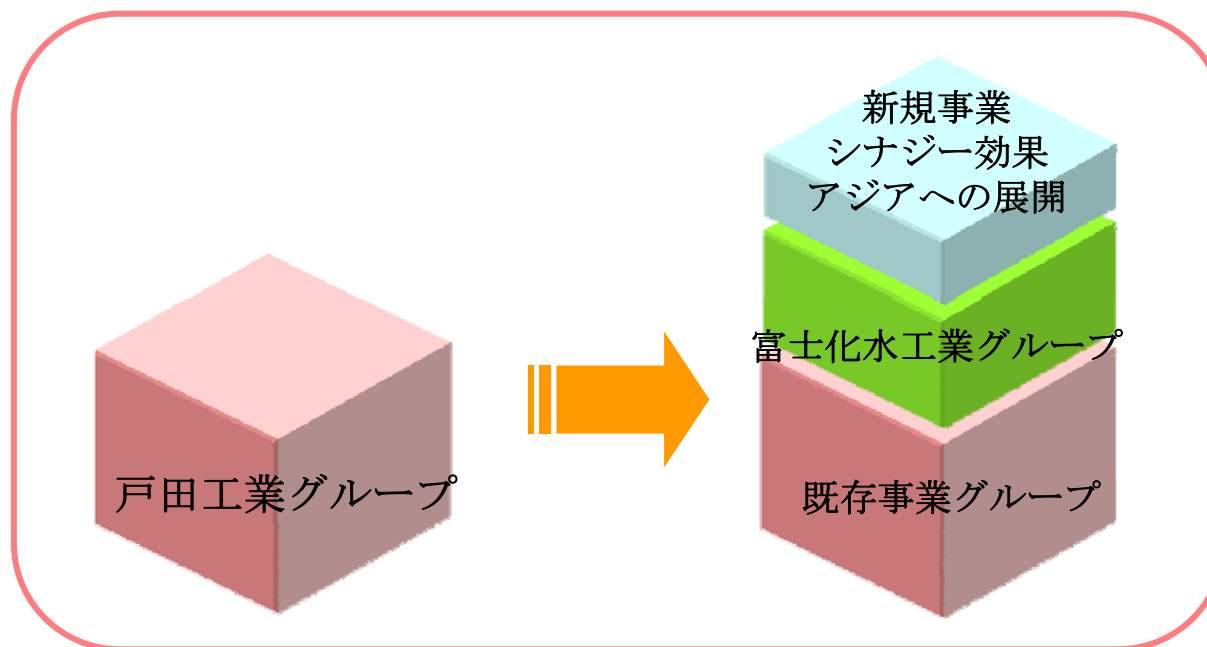
	08年3月期 上期	09年3月期 上期	前年同期比
設備投資	1,060	2,155	203%
研究開発	807	1,043	129%
減価償却	1,086	1,066	98%

1. 設備投資の主な内容は、リチウムイオン電池材料・カラートナー用材料・塩ビ安定剤の増産設備です。
2. 研究開発費は、新規事業の開発に重点配分をしており、リチウムイオン電池材の開発に多くの経費を投入しました。引続き規模の拡大を続けます。
3. 減価償却費は、法定償却年数の見直しによる償却年数の繰延により、従来通りであれば増加するところが横這いとなっています。

2009年3月期（2008年度） 事業計画

中期経営計画における重要課題

1. 新規事業の確実な立上げ
2. 富士化水工業(株)のグループ経営化による
確実なシナジー効果の創出
3. アジアへの展開



中期経営計画（06～09年）

2008年度下期 営業成績の見通し

(単位:百万円)

	08年度		09年度
	上期実績	通期予想	計画
売上高	24,717	50,000	52,000
営業利益	23	250	3,200
経常利益	△ 337	100	3,200
当期純利益	△ 1,005	△ 900	1,900
営業利益率	0.1%	0.5%	6.2%
ROE	△ 3.9%	△ 3.5%	6.0%
一株当り純利益	△ 22.30円	△ 19.96円	40円

注: 09年3月期通期予想のROE算出には、09年3月期上期実績の株主資本25,961百万円を使用。

1. 新製品のスピーディーな拡販

2. 電池事業の拡販と収益体質の改善

3. 環境エンジニアリング事業の収益体質の改善



新たに活動を開始する会社

グループ内のネットワーク力を更に強化します。

会社名	活動開始	趣旨	記事
戸田工業プロキュアメント株式会社	08年8月	TKPは、戸田工業の調達部門とエフ・ケイ・ケイ商事の統合により、 <u>スケールメリットと、エフ・ケイ・ケイ商事の長年に渡る機器調達のノウハウを武器</u> として、グループの調達力の強化を実現し、当社及び富士化水工業、またそのグループ各社に原燃料、機器を品質、価格、納期の各項目において最善の形で提供することをその役割とします。	資本金 6,000万円
マグネクエンチ 戸田麦格昆磁磁性材料 (天津)有限公司	08年11月	<u>世界最高磁力を誇るボンド磁石用のネオジ パウダーメーカーであるMQI社のパウダー安 定供給力と戸田工業の持つ各種成形用材料 製造技術</u> を新会社へ導入することによって、コスト競争力と高品質を兼ね備えたボンド磁石用希土類コンパウンド製品の安定供給が可能となります。自動車用部品、高効率モーター、電子部品などへの希土類ボンド磁石の用途の拡大を目指します。	生産能力 40t/月



機能的顔料事業

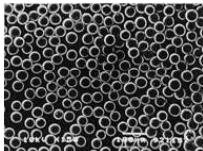
主な製品、開発テーマ

電子印刷材料	トナー用材料 キャリア用材料
磁気記録材料	デジタルテープ用記録材料 磁気カード用記録材料
環境機能材料	ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド からす対策ごみ袋用コンパウンド
顔料	樹脂塗料用顔料 土木建材用顔料 化粧品用高級顔料

カラートナー用キャリアを拡販します。

当社のカラートナー用キャリアは画質性、耐久性で非常に高い性能を有し、販売が加速しているため、09年度での増産体制を確立します。

電子写真方式によるカラー印刷は、オフィスからPOD (Print On Demand) 等業務用として拡大していますので、この分野への拡販を目指します。



カラートナー用キャリア



POD機

リップスティック用高級顔料が先端技術から誕生

新しい色調を生む色彩豊かな顔料が、リップスティックに乗り、世界中の女性を喜ばせています。

先端技術を駆使した顔料が新しいウェーブになることを期待しています。



新しい顔料の開発を進めています。

アスファルト用着色バインダー



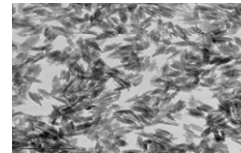
色彩性、施工性に富んだCSアスファルトによる舗装工事

道路レーン標示用無鉛顔料



環境に優しい無鉛顔料による黄色のセンターラインが、東京都等から採用開始

高性能透明顔料



有機顔料を超える対候性を有する透明酸化鉄顔料

高反射顔料

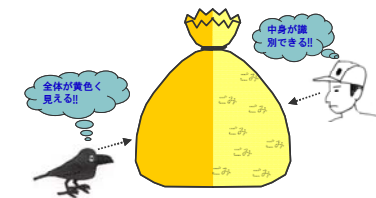


建物の屋根などに塗ることにより太陽光を反射して温度上昇を防ぐ高反射顔料

環境問題に密着したごみ袋用コンパウンド

ダイオキシン抑制ごみ袋用コンパウンドは、市町村を中心として安定した需要が継続しています。カラス対策ごみ袋用コンパウンドは、NHKや各種メディアでも紹介され需要が拡大しています。

波長を利用した黄色系ごみ袋の内容物の識別想定図
カラス対策ごみ袋



デジタル磁気記録材料は次世代の開発に注力

データテープ用のデジタル磁気記録材料として、より微粒子化、高機能化された記録材料を開発しています。あわせて、次世代の新規磁性材料の研究開発も進めています。

電子素材事業（1）

■ 主な製品、開発テーマ

電池材料	リチウムイオン電池用正極材料 コバルト材料調達
電磁環境	アンテナ増感シート ICタグ フェライトウェハー
磁石	希土類磁石 モータ用磁性材料 電子印刷機器用部材
新開発	光学フィルター用電磁遮蔽材料 燃料電池用改質触媒 誘電体材料 塩化ビニール安定剤

■ リチウムイオン電池材料を拡販します。

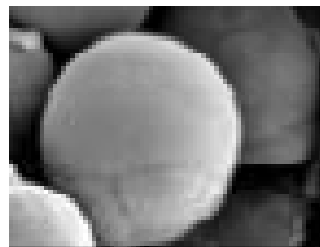
時代の流れと市場ニーズに適応したリチウムイオン電池用正極材料の開発と商品化に力を注いでいます。

すでに生産・販売しているコバルト系とニッケル系に加え、三元系、マンガン系、鉄系リチウムイオン電池用正極材料をラインアップに加え、市場展開中です。

全ての材料を開発出来るところが、当社の最大の強みです。

(商品群)

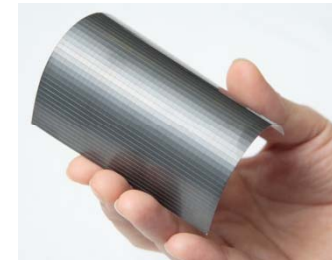
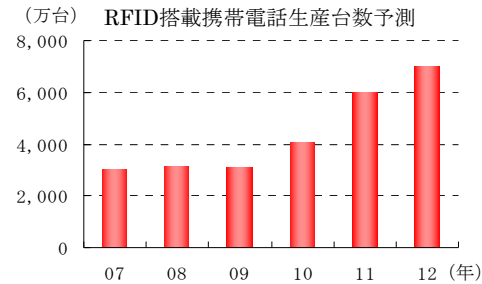
- コバルト系
- ニッケル系
- マンガン系
- NCM（三元系）
- 鉄系



NCM（三元系）

■ おサイフケータイのアンテナ用基板

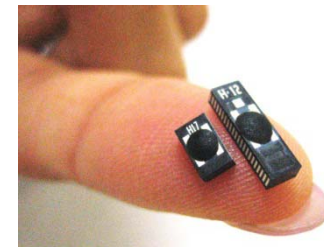
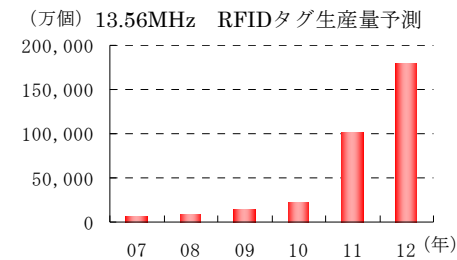
RFID通信に使用されるアンテナの感度を向上し、通信距離が拡大するフェライトシート基板を量産しています。従来使用されていた金属磁性粉のシートに比べ優れた材料特性を持つことから、おサイフケータイ等に採用されており、今後は海外の携帯電話メーカーへの採用も期待されます。



アンテナ用シート

■ ICタグ

弊社のフェライト材料技術をベースに、超小型で交信距離や耐熱性に優れ、金属表面でも作動し、ハンダでも実装できるという、他社品には無い特長をもつICタグを開発し、国内外への販売を開始しています。特に、他の電子部品と同時にプリント基板に実装し、製造管理や偽造管理に使用されたり、携帯電話の通信部品としても採用される可能性があることから、今後大きな需要が期待されます。



IC TAG

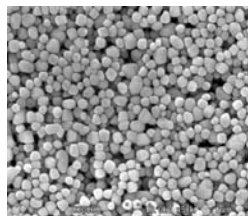
電子素材事業 (2)

コンデンサ用誘電体材料の拡販

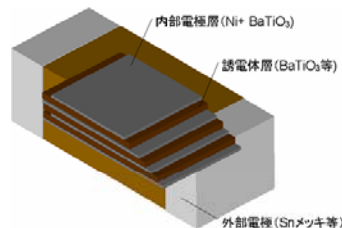
携帯電話等で数多く使われる小型高性能チップコンデンサを実現するために、ナノ誘電体材料（チタン酸バリウム）を製造しています。

当社の製品は、形状の揃った小粒子ですので、分散性が高く、薄層化・高積層化に最適で、結晶性も高いため、高誘電率を確保できます。

市場の伸びも期待される中で、当社製品の特徴が認められ、需要が拡大してきたため、プラントを増設することとしました。



チタン酸バリウム (100 nm)



燃料電池用改質触媒の開発

燃料電池は、地球温暖化防止の切り札の一つとして、期待されています。培ってきた基盤技術を活かし、燃料改質触媒の開発に力を入れています。近い将来の商品化が期待されています。



燃料改質触媒
1.5~5mm φ

ネオジ系射出コンパウンドの生産開始

中国・天津市にマグネクエンチ・インターナショナルINC (MQI社) との合弁で戸田麦格昆磁磁性材料 (天津) 有限公司を設立し、11月からネオジ系射出コンパウンドの生産を開始いたします。MQI社のパウダー技術と当社のコンパウンド化技術により、コスト競争力と高品質を兼ね備えた希土類コンパウンドの安定供給が可能となり、自動車用部品・高効率モーターなどの分野への拡大を目指して行きます。



磁石用ペレットの例

環境に優しい無鉛の塩化ビニール安定剤の増産

電気ケーブルの被覆、上下水道用塩ビパイプ等の無鉛化が進んでおり、使用される安定剤としては、カルシウム亜鉛系安定剤への置き換えが加速しています。

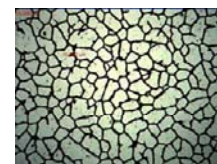
当社の塩ビ安定剤NAOXシリーズは、そのニーズにベストマッチしており、急速に需要を伸ばしています。

光学フィルター用電磁遮蔽材料の開発

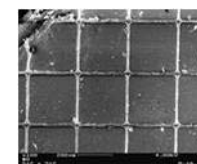
銀ナノ粒子を自己組織化させる機能を有した新規材料は、塗布・乾燥工程のみで、ナノ銀のランダムなメッシュ模様を形成します。

従来の規則的な格子状のメッシュを使った電子遮断材料に対して、製造の効率化を図ることが出来ます。また、メッシュの形状に規則性が無いため、モアレを生じないという利点を持っています。

PDPなどの普及と共に、銀ナノ粒子の販売を大きく成長させます。



自己配列する銀ナノ粒子



従来のリソグラフィー法によるメッシュ

エンジニアリング事業

■ 主な製品、開発テーマ

環境エンジニアリング	環境ソリューション 廃ガス処理 廃水処理 土壌浄化
------------	------------------------------------

■ 廃ガス処理の拡販

モレタナ式スクラバー（脱硫、脱硝装置）

モレタナ式スクラバーは、空塔速度が速く、装置が小型で少スペースです。内部構造が簡単で、メンテナンスフリーです。また、ダスト除去も可能で、脱硫・脱硝装置として高い評価を得ています。



■ 廃水処理の拡販

1. トロル水処理装置

嫌気性高負荷処理装置で排水を処理します。活性汚泥法に比較して、動力費が1/5～1/10になります。また、好気性処理に比較して、汚泥発生量が1/3～1/10になります。



2. ヘルディバイオオ水処理装置

フッ素、貴金属を高度に安定する能力を有しています。従来工法に較べて、汚泥発生量を半減、ランニングコストを半減することが可能です。



■ 土壌・地下水浄化ソリューション事業の展開

戸田工業の製造するRNIP（塩素含有有機物浄化触媒）とAMH（重金属不溶化剤）を技術の中心に据えて土壌浄化事業に取り組んでいます。富士化水工業では土壌汚染の調査から対策工事まで幅広くソリューションを展開することが出来ます。



VOC浄化のためのRNIP施工方法(例)

将来予測について

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる結果となりうる事を、ご承知おき下さい。

お問い合わせ先

戸田工業株式会社

常務取締役 経営管理本部長

高橋 精一

TEL 03 - 3433 - 2411

FAX 03 - 5404 - 7244

E-mail: Webmaster@todakogyo.co.jp